

(シラバス No.22) (関連科目)

| 科目名 | 生涯学習特論 | 単位数 | 2単位 | 科目コード | K1 |
|---|---------------------|------|-------|-------|----|
| | Advanced Seminar on | 形態 | 選択 | | |
| | Lifelong Learning | 担当教員 | 三輪 建二 | | |
| 【授業概要】 | | | | | |
| <p>日本における生涯学習の理念が個人の自発的な学習と自己実現をめざすものから、学習成果を地域社会に生かす生涯学習、地域コミュニティの再生と創造をめざす生涯学習へと変化していることを理解する。また、生涯学習の主な担い手である成人学習者の特性を理解し、その特性を生かした学習と学習支援のあり方を検討する。さらに、受講者の多くが自らの専門職のあり方について学び続ける成人学習者であるという理解をふまえた上で、専門職としての能力開発を成人学習論（特に省察的実践論）の観点から考える。</p> | | | | | |
| 【授業の到達目標】 | | | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 戦後からに現在までの生涯学習、および共生社会に向けての生涯学習の理念を理解する。 2. 生涯学習の主な担い手である「成人学習者」に注目し、成人の学習論の特徴である自己決定性の発達、経験の尊重、意識変容の学習、省察的実践などの基本的な考え方を理解する。 3. 教員をはじめとする専門職の人びとは自らの専門性について学び続ける成人学習者であり、省察的実践の考え方などを通して能力開発を展開できることを確認する。 | | | | | |
| 【授業計画】 | | | | | |
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 自発的な学習としての生涯学習論（1980年代） 2. 個人の学習からグループ学習を志向する生涯学習論（1990年代） 3. 学んだ成果を地域社会に生かす生涯学習論（2000年代） 4. 地域コミュニティの再生と創造に向けての生涯学習論（2010年代） 5. 共生の生涯学習論：今後の展望 6. 生涯学習の場と共生の生涯学習の進め方：大学・社会教育施設 7. 成人学習者と成人学習論というアイデア 8. マルカム・S・ノールズの成人学習論：自己決定性と経験の尊重 9. パトリシア・クラントンの成人学習論：意識変容の学習 10. ドナルド・ショーンの成人学習論：省察的実践論 11. 成人学習支援・成人教育と教育者の役割 12. 専門職の能力開発と成人学習論 13. 実践の省察とは何か？ 14. 実践の省察にチャレンジする：実践編 15. 生涯学習論と成人学習論の展望と課題：全体のまとめ | | | | | |
| 【評価方法】 | | | | | |
| <p>「授業内で課すレポート評価」（30%）、「実践の省察に関するレポート」（20%）、「科目修得試験」（50%）の割合で総合して評価する。</p> | | | | | |
| 【教科書】 | | | | | |
| <p>三輪建二『生涯学習の理論と実践』（日本放送出版協会、2010） 中村香・三輪建二編『生涯学習社会の展望』（玉川大学出版部、2013）</p> | | | | | |
| 【参考図書】 | | | | | |
| <p>M・ノールズ、堀薫夫・三輪建二監訳『成人教育の現代的実践』（鳳書房、2002） P・クラントン、入江直子・豊田千代子・三輪建二訳『おとなの学びを拓く』（鳳書房、1999） D・ショーン、柳沢昌一・三輪建二監訳『省察的実践とは何か』（鳳書房、2007）</p> | | | | | |